

# オホーツク地区 教育経営研究会

- 1 目 的 学校教育に山積している課題を教育改革推進の視点から捉え直し、その解決に向けて法令と関連させながら解明に努め、校長としての職能向上を図る。
- 2 主 催 北海道小学校長会 北海道中学校長会
- 3 後 援 北海道教育庁オホーツク教育局
- 4 主 管 オホーツク管内小中学校長会
- 5 期 日 平成29年9月27日(水)
- 6 会 場 北見市端野町公民館 大会議室
- 7 参 加 者 オホーツク管内小中学校長会役員並びに会員(108名)  
オホーツク管内小中学校教頭会(4名)
- 8 講 師 北海道小学校長会事務局次長 川島 政吉 氏(旭川市立知新小学校長)  
北海道小学校長会経営部幹事 山谷 陽子 氏(札幌市立山の手小学校長)  
北海道中学校長会対策部幹事 庄司 直樹 氏(北竜町立北竜中学校長)
- 9 司会・記録 【司会】 湧別町立中湧別小学校長 石塚 洋司  
【記録】 美幌町立旭小学校長 寺嶋 誠也  
【進行】 北見市立上常呂小学校長 徳増 秀隆
- 10 日 程 13時10分～13時25分 開 会 式  
13時30分～14時40分 教育情勢報告  
14時50分～16時20分 研 究 協 議  
16時20分～16時30分 閉 会 式

## 1.1 情勢報告及び研究協議

### (1) 川島道小事務局次長からの教育情勢報告(平成29年度第4回理事研修会教育情勢資料参照)

- ① 道小・道中の活動・組織について
- ② 全国学力・学習状況調査結果に関して
- ③ 教員の長時間労働改善に関して
- ④ 小学校外国語活動への対応について
- ⑤ 文科省の施策、道・道教委の施策に関して
- ⑥ いじめ問題に関して

### (2) 質問事項と解答(山谷道小幹事及び庄司道中幹事より)

- ① 教職員の定数配置・期限付教諭の状況
  - 文科省は2018年度予算の概算要求で、公立小中学校の教職員の定数3800人増を盛り込んだ。小学校で英語などの専科指導2200人、中学校で生徒指導強化500人、事務職員、主幹教諭の充実500人。また、教員の多忙を緩和するため、印刷、授業準備を助けるスタッフ3600人の配置のための予算要求をしている。
  - 期限付きの状況については、4月の段階において小で25名、中で4名の欠員を抱えている。北海道教育庁代替教員等応募・任用システムの一層の周知を図るほか、市町村教育委員会、校長会、教員養成課程をもつ大学などとも連携し、可能な限り速やかに臨時的任用教員等の確保に努めていく。
- ② 道徳の教科化に向けての進捗状況
  - 中学校では平成31年度から完全実施される特別の教科道徳に向け、国の道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業を引き続き実施し、道徳教育の充実に努めていく。教材の整備については、「私たちの道徳」及びこれまで道教委が作成した資料、北海道版道徳教材「きたものがたり」の中学校用の作成・配付を行う。
  - 道内すべての道徳教育推進教師を対象に「道徳教育推進教師研修」「道徳教育パワーアップ協議会」を実施し、道徳教育推進教師の資質向上を図る。
- ③ コミュニティ・スクール、小中一貫校の現状について
  - 平成29年4月現在、道内での導入状況は  
幼稚園4園、小学校102校、中学校52校、義務教育学校3校、高等学校4校、  
成果としては①特色ある学校づくりが進んだ。②教職員の意識改革が進んだ。③保護者・地域の学校支援活動が活発になった。④学校と地域が情報を共有するようになった。  
一方、課題としては、①活動費や委員謝礼の支弁に係る予算措置。②コーディネーターと

- なる人材の育成。③地域学校共同活動に参加する人材確保。等が示された。
- 小中一貫校の取組を考える際には、学校規模も一つの要素となる。小規模校なら教職員間の意思疎通はしやすくなる反面、人員のやりくりが難しくなる。大規模校なら教職員を集中的に配置しやすいが、意思疎通、施設の利用に制限が生じる可能性も高くなる。
  - ④ 人事評価制度の成果と課題、面談の方法、配慮事項について
    - 学校の教育目標を職員に示し、目標管理手法を導入しながら職員の評価を行い、資質能力の向上や学校の活性化を図る必要がある。具体的な面談方法、配慮事項については、学校職員人事評価制度手引きを参照の上、適切に対応してもらいたい。

### (3) 研究協議（各市町村校長会の実践報告と質疑応答及び情報提供）

- ① 道徳の進捗状況と小学校外国語活動の時数確保に向けた状況について
  - ア 網走市校長会の実践報告
    - ・道徳の取組については学校により実態に差がある。外国語の時数確保については、余時数から確保、土曜授業の実施により確保していく。
  - イ 小清水町校長会の実践報告
    - ・道徳教育推進教師から通信の形で随時情報提供が行われている。外国語の時数については、土曜授業による余時数を使う予定。
  - ウ 遠軽町校長会の実践報告
    - 総合の時間は使わず、教育課程を見直し、それでも難しい場合には長期休業日の削減も考えている。
- ② 人事評価制度の評価や対応について
  - ア 津別町校長会の実践報告
    - ・能力評価で全て「a」で記載してくる職員に対し、面談の時間をしっかり確保し、職員一人一人と向き合い話し合うことが大切である。
  - イ 西興部町校長会の実践報告
    - ・上位区分の割合があり、一律高評価を付けることができないため、上位評価のタイムラグを図ることもあるのではないか。
- ③ コミュニティ・スクールや小中一貫教育の状況について
  - ア 清里町校長会の実践報告
    - ・今年度から実施している。管理職主導で行うと、職員の協力も得られにくいので、教員の中から主となる教員を立てることが必要である。
  - イ 訓子府町校長会の実践報告
    - ・町教委で検討に入っている。平成31年度から実施予定。
  - ウ 湧別町校長会の実践報告
    - ・今年度から2校が実施。小中一貫校については、芭露小、湖陵中で次年度より実施する。学校名は芭露学園に決定。
- ④ 期限付教諭の配置の実態、教頭の土日勤務の実態について
  - ア 北見市校長会の実践報告
    - ・期限付が配置されている学校が全体の6割となっている。毎年不足が生じているので未配置を出さない制度を確立してほしい。教頭の勤務実態については、土日の見回りを無くし、自宅からの通勤を可能にすると教頭希望も増えると考ええる。
  - イ 紋別市校長会の実践報告
    - ・市内では今後6名の期限付が必要となる。2校目の教員が多く、育休に入る職員が多い。見回りについては校長と連携して行っている。
  - ウ 美幌町校長会の実践報告
    - ・期限付、講師を捜すことが、非常に困難になってきている。教頭の負担軽減として、土日や年末年始の見回りを無くす方向で考えられるとよい。

### (4) 講師（川島道小事務局次長）からのまとめ

- オホーツクの経営研では、市町村ごとの課題等の交流資料が作成されており、他の地区では無い取組である。更に一步進めるのであれば、グループ協議を取り入れるとよい。
- 期限付きの未配置の問題については、全道的な課題であり、教員を希望する学生が減ってきている。教育大でも半数は市職員を希望する現状である。
- 加配は黙っていても配置されない。計画書にどのようにアピールするか考える必要がある。
- 40代以上の教員の意識改革が必要である。研修へ行かせるなどして、資質を高めさせる必要がある。